

## 令和4年度 第5回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】 令和4年10月13日（木）

午後1時30分～午後3時

【会場】 松崎町農村環境改善センター

### 1 出席者

発言者：松崎町・西伊豆町において様々な分野で活躍中の方 4名

### 2 発言意見

番号	分野	項目	頁
発言者1	防災	身近にできる防災対策	4
2	健康寿命	健康寿命延伸に向けた取組	6
3	地域振興・林業	地域おこし協力隊としての現在の活動と将来の展望	10
4	観光	観光協会のあるべき姿	12
傍聴者1	—	駿河湾の海藻食文化の普及啓発	23

【川勝知事】一言ご挨拶を申し上げます。

昨日から移動知事室でこちらの方に入っております、昨日は西伊豆で、海が穏やかでございましたので堂ヶ島のジオパーク、天窓洞、いわゆる青の洞窟を見まして、感動しました。膝を痛められて、改めて勉強されジオガイドになられた漁師の方から、その方の本当に素晴らしいガイドにも助けられて、美しいものを見たなと思いました。

それからまた、幼稚園がすばらしい地域発信の拠点になっておりまして、KAMO' n h o u s e っていうんですけども、そこでの活躍だとか、小学校が今「やまびこ荘」という名前になりまして、温泉プール付きのですね、学校の土地に、ブルーレヴズだとか、ベルテックス静岡という静岡のバスケットボールのプロチームが合宿しているところも訪れて、そしてまたそこではダチョウをですね、牛とか鶏とか豚とも違う素晴らしい肉料理にできるという名人のお話、また料理の方もありまして、そして昨日の夜には松崎に入りまして、その入る前にですね、松崎は台風8号でやられましたので、これが終わってからなんとか早く来たいと思ってたんですけども、今でもできることはあるのではないかと考えているところで松崎に入った次第でございます。

それからこの松崎に入って最初に行きたかったところはですね、松崎高校です。松崎高校に行きましたところ、特別支援学校におられる生徒さんたちと意見交換することができました。特に特別支援学校の少年少女たちが太鼓でですね、もう見事な息の合った太鼓で迎えてくれまして感動にうち震えたと言いますかそういう感じになりまして、その後今日もお越しになっております教育長、また松崎高校の校長先生のお話を承った後、美術部の生徒さんとか2030松崎プロジェクトということで地域と高校生が主体となって、そんな中で、美術部の女子学生が地域の看板を作ってるということで感心して聞いてたわけですね。

そんなことがありまして、最後に国民宿舎に泊まりましたところ、なんとそこには山梨県からたくさんのお客様が来られてるんですね。やっぱりこれはですね、中部横断自動車道ができて、静岡県の港に関しては、あるいは漁業に関しては今日こちらにいらっしゃいます森竹治郎先生が獅子奮迅の活躍をせられてですね、静岡県の漁業であるとか港の発展に尽くされているわけですが、最近になってですね、港湾に関わる知事協議会っていうのがあったんですよ。山梨県も入りたいと言います、山梨県は海なし県です。海がないじゃないですか、何で入るんですかって聞いたら、知事さんがですね、「いやー清水港が山梨県の港になりましたので」とおっしゃったそうです。つまり山梨県からす

ぐに来れると。海がないものですからお魚が取れないと。10万人あたりのお寿司屋さんの数が一番多いのが山梨県なんです。そしてもうすぐ清水港まで来て、この遊覧船って言いますかフェリーに乗って土肥港からこちらに来るといふそういうふうになってですね、ふじのくにの表玄関と奥座敷、それが一体になっているのを、昨日国民宿舎で学んだと思いました。

今日はたくさん松崎の持っているポテンシャルを見せていただきまして、今日もこれ素晴らしいことなんか語られておりますけれども、松崎は景色がきれい、西伊豆もそうですね、夕陽がきれい。こういうところはですね、富士にはお花がよく似合いますね、そこで花飾りをされてるわけですね、花とロマンとこれをですね、ベースにして町おこしをすると。そしてなんと静岡大学の学生さんが地域創造学環の学生さん9人こちらに来ておられて、出身地を聞いたらですね、私は大分県、私は岩手県、私は福井県、私は長野県とですね、そういう県内の学生さんがここ本当に皆さん大事にさせていただいて、こんないいところ、もう素晴らしいと。若い9人のうち7人が女子学生でした。おふたりが男の子だったわけですが、ここは女性にこのロマンのこういう花束ですね、街を感じさせるところになってるなっていうことが実感しまして。さらにですね、今日はすごいポンカンを作っているところにも行きまして、そこでも実は発言者3さんにお目にかかったんですが、その後松崎工房ってところに行ったらなんとですね、この木工の仕事をやっている名人が、この方たちもふたりとも木工の修行をされていた方々なんですけれども県外の方で、ここは材料がいいので、景色がいいので、食べ物がいいので、人がいいので、ここ松崎工房ってのを開いたと。もう県外からたくさん来られて、かなりの方が女性なんです。でそういうですね、この匠の技を木を使って、作って楽しむと。この方たちがここを大きく育てたいとおっしゃってました。

で偶々ですね、この間文部科学大臣に呼ばれて、文部科学大臣は永岡桂子さん、女性の文部科学大臣なんです、来年つまり2023年は富士山が世界文化遺産になってちょうど10年目であるので、静岡県を日本の文化の首都に任命しますので引き受けてくださいと言われてました。これは東アジア、中国と韓国と日本でやっている文化の代表を各国一つだけ、静岡県が日本の代表になります。それがですね、木工文化、温泉文化あるいは食文化、花の文化、こうしたものですね、日本の代表として来年は日本の文化の首都らしく、展示していきたいと思っております。そういう運動がですね、この美しい景色、夕陽が日本一の西伊豆、あるいはですね石部の棚田から見る富士山、そして松崎高

校の高校生もですけど、この地域の人たちによって維持されるんじゃないですか。こうしたところは生きた芸術作品ですね、ここをなんとかその文化の首都になったときのこれから目玉にしたい。

さらにですね、皆さんワクチン打たれていると思いますけれども、ファイザーかモデルナかと思いますが、モデルナなどは100人くらいの小さな会社だった、研究所だったんですけど、大儲けされたわけですね、日本人のおかげでもあります。もう1兆円近くです、お金払ってますから。で一方儲かると、こちらに研究所を作りたいとおっしゃった。それで政府に強い要求をされていたわけなんですけれど、私はその研究所をですね、賀茂地域に持ってきたいということで、今はアメリカのカリフォルニアにある会社です。カリフォルニアの大きさは日本の大きさなんです。彼らが言うそうですね、ここはもうすぐそばが東京じゃないですか、すぐそこは横浜じゃないですか。で、伊豆半島の下田は黒船さんが来られたようにアメリカと縁があります。だからここにあるのが一番いいということで、森副知事を今先頭に立ててですね、モデルナの会社をここに持ってきたらいいと思っています。そしてこの間はもう天城の向こう側に国立遺伝研究所があります。そこの方々が聞くと、ここにも世界最高と言われているモデルナ研究所ができるものすごい励みになると言われておりますので、そういう動きも含めてですね、この賀茂地域を思いっきり励ましていきたい、一緒になってこの地域を盛り上げていきたいと思っております。

今日はですね、西伊豆からおふたり、そしてその松崎のおふたりがですね、こちらの人たちの希望、やってることを聞いてこれを県政に活かしていきたいと。聞きっぱなしにはしません。もしこちらでお聞きすることで答えられないことは必ず馬耳東風にしないでお答えすると。そしてここでお答えすることができればこちらでお答えすると。できればいろんなことを学んで帰りたい。今日は私の意見を言うのではなくて、広く聴く、「広聴」の聴くということでございますので、しばらくの時間この4人の代表選手ですね、お話を承ることを大変楽しみにしてこの席に立っている次第でございます。しばらくの間、皆様方、よろしくお付き合いくださいますようお願い申し上げます。

**【発言者1】** こんにちは。今日はよろしくお願いいたします。

本題に入る前にですね、皆さんにちょっとしたブレイクタイムということでもいただきたいと思いますので、皆さんお立ちいただいてもよろしいでしょうか。これからですね、簡単な体操、脳トレを行っていきたいと思います。

まず、足幅はだいたい肩幅と同じくらいにしてください。で両手を肩の高さぐらいにします。はい、その手のひらを外側に向けてください。外側です。外側の手のひらを合わせて、これ大変な方はそのままでも構いません。では上に上げていきます。これも年それぞれ上がるところが違うと思いますので、上がるところまで結構です。このままですね、10キープします。1、2、3、4、5、6、7、8、9、10。今度は足踏みを10します。ありがとうございます。下ろしてください。

次ですね、簡単な脳トレになります。両手を前に出していただいてどちらか片方を折ってください。このまま指折り数えて、まずは5まで数えます。いきますよ、はい1、2、3、4、5、大丈夫ですか。次は今度はもう少し短くして10まで数えていきます。はい。こういったことをですね、私、毎週高齢者の皆さんと行っています。どうぞおかけください。ご協力ありがとうございました。

じゃあ座らせていただいてお話進めたいと思います。私は足と靴、ここから健康をサポートすることやノルディックウォーキングでの健康運動、健康体操などにも取り組んでいます。それがなぜ防災士の活動につながっているのかっていうことを疑問に思われる方もあるかもしれませんが、災害時に自分の足で歩いて逃げられる体力づくりというのは防災につながり、どんな靴で歩くかによって運動効果が違ってきます。また逃げる際にどんな靴で逃げるかによってですね、その後の避難生活の水準にも影響してきます。またこんな運動をですね、地元地区で行うことで、コロナで崩壊しつつある地域コミュニティの再生の一助になればいいなとも思っています。

松崎町では、まだまだ防災についての関心や知識があまりないように感じています。防災グッズや防災トイレ、防災食などがもっと身近になってほしいと思い、今回2つの提案をさせていただきました。

1つは、マイ防災ボトルを作って普段からそれを持ち歩くことです。配布した資料は私の防災ボトルの例ですので、皆さんがそれぞれ必要で重要と思うものを入れてください。実際ですね、私が毎日背負っているリュックの中にこの防災ボトルが入っています。その資料には、この中に入っているものが一つ一つ挙げてあります。私このボトルを使っているんですが、これは中身を出してしまうと水筒になることや、硬いものですので中

の物が壊れにくいということがあるので採用しています。ですがポーチなどで作っていただいても構いません。これに何を入れるか考えることが防災の一步になると思っています。

2つ目は簡易トイレの備蓄です。市販のものは高価なので、ペットシートやオムツ、新聞紙を細かく切ったものと70リットルの黒い厚手のビニールで代用することができます。自宅の便器に1枚ビニール袋をかぶせて、その上で携帯トイレや簡易トイレを使用すると、普段使っているトイレで使うことができるので、使うことに抵抗が少ないように思います。町であった災害での断水や今回県内で発生した災害での大規模断水のニュースを見て、携帯トイレの重要性を感じたので今回提案をさせていただきました。私の提案は以上の2つになります。ありがとうございました。

**【発言者2】** 本日はよろしく申し上げます。

私は西伊豆町にUターンをして、地域おこし協力隊として介護予防の分野で活動をさせていただきましたので、報告をさせていただきます。

まず始めに自己紹介からさせていただきます。西伊豆生まれの現在33歳で、大学卒業後に8年間、都内の方で理学療法士として勤務して、29歳の時に地域おこし協力隊としてUターンしました。昨年度で協力隊の任期を終えましたので、今年度からは合同会社を設立させていただきまして、介護予防の、介護事業の分野で働いております。

私がUターンするきっかけがいくつかあったんですけども、大きく2つがありまして、1つは少子高齢化の進む地元に対して何か行動を起こしたかったところがあります。高齢化自体は全体で起きてはいるんですけども、特に伊豆地域は若い人がいなくなる、その中でどんどん高齢者の方を支える方が少なくなるので、そういった場合にはまず第一に高齢者の方が元気でいられるような環境を作るといふのが必要だと考えて、自分の方がUターンしようかなという思いが湧いてきました。

また、行政の方から地域おこし協力隊という働き方を教えていただいて、普段、理学療法士というのは病院での勤務が主になるんですけども、協力隊の活動を通じて地域に貢献をさせていただこうと思いました。

私がUターンする前の西伊豆町の状態なんですけれども、介護認定率と第1号の被保険者の一人1か月あたりの額が静岡県の平均と比べて西伊豆町がすごく高かったという

ところがあります。静岡県自体は全国でいうと第3位に健康な県と言えるんですけども、西伊豆町はその中でも下から数えた方がだいぶ早かった印象があります。

そんな中で、私の方がじゃあこの数字をどうやって変えていこうかというところで行った取組なんですけれども、まずは町内のラジオ体操の普及だったりとか、あと高齢者サロンの強化ですね。それを行うことによって顔が見える関係性を作って、あとは認知症だったりとか閉じこもり、うつをまずは防いでいこうと考えました。

その次に行ったこととしては、シルバーリハビリ体操教室といって、住民主体型の体操教室を指導する指導者の方を養成させていただいて、自助だったり、互助の強化の方を変えていきました。あとは3つ目が介護相談や認定調査、あと住宅改修っていうのを町の職員の方がやられているんですけども、その際に一緒に私が同行させていただき、専門的な視点から適切なサービス等を町民の方々にアドバイスをさせていただきました。

私がやってることっていうのは、環境や仕組みづくりの手伝いが主なことになります。4年間か3年間、私の方で活動させていただきまして少しずつその成果というのが出てきて、2021年の「第10回健康寿命をのばそう！アワード」の介護予防分野で西伊豆町の取り組みが厚生労働大臣の最優秀賞を受賞させていただきました。この写真は去年の12月1日ですね、表敬訪問をさせていただいた時のものになります。

先ほどもあった平成30年度の時に県の中でも下から数えた方が早かった介護認定率だったり介護の費用額なんですけれども、まあ3年間の活動も、これ以外に活動もあるんですけども、改善が見られて令和3年度には県の平均よりも低くなって、費用額の方はまだもう少しオーバーはしてるんですけども、まあ近づいてきているような状態になります。ここでポイントなのが全国と静岡県自体は介護認定率も費用額の方も増加傾向にあるのに対して、西伊豆町は減少傾向というところが一つ大きな成果だったのかなと感じております。

私の今後の展望というところなんですけれども、今、体操教室だったりいろんな仕組みづくりの方をやってるんですけども、最終的にはひとりでも多くの人が住み慣れたこの地域でその人らしく生活ができるような環境の設定だったり、選択肢の提供をしていくことっていうのが私自身が一番やっていきたいところであります。そう言っても自分一人ですることっていうのは限られているので、これからより一層専門職や地域の方々の力を借りて活動していけたらいいなと思っています。その活動をした結果が西伊

豆の、伊豆の西エリアの健康寿命だったりお達者度の更なる改善が見込めて、事業費や介護費、介護給付金の低減になるんだと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

【川勝知事】おふたりとも地域の先生ですね。

発言者1さんからは、やっぱりノルディック・ウォーキングのインストラクターの資格をお持ちですから、理屈よりですね、足腰を鍛えると、姿勢も運動をやると良くなりそうなので、これ教えていただきましてこれから完璧にできるように皆さんも一緒に頑張りましょう。これがですね、今やっておられる防災とご縁があるということで、やはり防災の基本は、災害のことは基本は自助・共助・公助という順番です。まず自らを助けること。自らを助ける時に歩くということがとても大切だということですから、特に歩くことがだんだん不自由になってきますので、歩く力を持ち続けるために、今のようなことをしていると大丈夫ですよということです。それから自ら持ってこられましたマイ防災ボトルというやつですね。つまりこれがやっぱり見本じゃないでしょうか、何が入ってるかが分かりますからね。ですから中が見えないボトルよりも中が見えるボトルがいい。そうすると人と見せ合ってまた中身を変えることができますし、一番大事なのは水ではないかと思います。

台風15号でですね、長い間静岡市清水区のところで8万世帯最初水がなくなってもう本当に苦労されたと、水がいかに大切かっていうことを骨身に染みて知ったという人が多く出ました。松崎町でも台風被害が出ましたけれどもあれは床上浸水が中心でしたから、しかし水というのはいかに生活を脅かすかと同時に水がなくては生きていけないという、その最低限のこの持ち物としていつも持っているとおっしゃったのありがたいことでしたね。もう一つは備蓄トイレになりますけれども、それも簡単に自分たちで作れるものを教えていただきまして、ぜひ松崎の皆様方これをマスターしてくださるようお願いをしたいというふうに思います。

それから発言者2さんはですね、理学療法士ということで厚生労働大臣最優秀賞を昨年お取りになりまして、大したものだと。しかも統計的な技術に基づいて何をしなければいけないかということなさってるわけです。私はですね、今社会健康医学大学院大学という、舌をかみそうな、そういう大学院を日本で最初に作りまして、昨年発足して今年2年目になりまして、大学院です。そして来年の4月から博士課程を文部科学省が



認めました。これはですね、病気にならないようにする、つまり健康寿命を伸ばすそのための専門の先生、あるいは研究者、実践的な研究者を作る、そういう大学院です。これは静岡県立総合病院、静岡市にありますけれど、その隣に設置されております。こうしたことで我々県の方でもやっておりますけれども、私は発言者2さんはこのラジオ体操を含めてですね、非常に身近なところで理学療法士の資格を通して何をすると健康寿命が延びるかをなさっている、大変ありがたい。

さらに言えばですね、賀茂地域あるいは伊豆半島全体が温泉の数が日本でも有数の多いところをごさいますて、温泉文化という言葉があります。この温泉文化をユネスコの無形文化遺産にしようという、そういう運動があります。これはですね、群馬県の知事さん、山本一太さんという国会議員を務めた方なんですけれども、草津の温泉の出身で、そして日本の温泉文化をユネスコの無形文化遺産にしたい、川勝協力をしてくれという電話が10日程前にありまして、ふたつ返事でOKしました。それはですね、伊豆半島が念頭にあったからです。ここは温泉のたくさんあるところで、ここにICOIプロジェクトという温泉に行って湯治をするとなぜみんな元気になるかということを科学的に考えつつですね、長逗留する人を増やし、かつ専門家のアドバイスを得たり、温泉療法ということでございますけれども、そういう時にですね、この発言者2さんのような存在が非常に重要になると思っております、温泉文化も、日本の文化首都に来年なりますので、これも国の方にしっかりと訴えてまいって場合によっては大きな予算ですね、獲得してまいりたいと思っております。

それから西伊豆で地域おこし協力隊で協力いただいた、今西伊豆にですね地域おこし協力隊が一番多いんじゃないでしょうか。10人以上いらっしゃいますね。でそれを経験されたということですが、地域おこし協力隊のメッカになっているかと思えます。西伊豆が、あるいはこちらの賀茂地域がですね。ですからここに県外の人たちが、県内に戻られた発言者2さんのような人もそうですけれども、引きつけてる力があるわけですね。まあですからこれは将来相当大きな話になっていくんじゃないかと。

なぜかという、移住希望地2020年、2021年、静岡県が日本一。2年連続です。実際に移住してきた人たち、2020年度で1,398名でした。そしてですね、その年代を見てみると30代前後、すなわちお子様を育てている世代の方たちが5人中4人以上です。81.7%でした。で去年のさらにそれが500人増えまして1,868名になりました。それも同じように83%以上が30代前後だったんです。その方たちがこちらに来たいって言うてるんで

すね。ですからですね、東京よりも広く住めますよと、駐車場代も要りませんよと。少し広ければ家の中に置けますからね。オンラインで仕事もできますよ、温泉もありますよ、そして運動もできますよ。こうなればですね、あとは伊豆縦貫自動車道がしっかりできればですね、非常に来やすくなるだろうと思いますので、温泉文化の話をですね、ちょっと頭に浮かべながら、静岡県で今進めておりますICOIプロジェクトというものと連動させて発言者2さんのような理学療法士の活躍の場面も広げていきたいと、そういう感想を持ちました。ありがとうございました。

**【発言者3】** こんにちは。本日はこのような機会をありがとうございます。

本日私の活動内容をお話しするにあたって写真がある方がイメージしやすいかなと思いましたので、スライドの方をご用意させていただきました。少し自己紹介をさせていただいた後、現在行っている活動、それから今後についてお話をさせていただければなと思います。よろしくお願ひします。

それでは自己紹介からさせていただきます。先ほど私の紹介にもあったように、徳島県出身で大学は香川大学の教育学部で過ごしました。卒業後は東京のITベンチャー企業で就職をしましてWebマーケティングと、あとコーポレート推進室、いわゆる人事のような仕事を2年半行いました。その勤務を終えて2021年の2月頃、松崎町に地域おこし協力隊として移住したという流れになります。

次に、今どのような活動を行っているのかお話しさせていただきます。5つの主な活動を行っております。林業、農業、2030松崎プロジェクト、それから木工、環境教育になります。概要についてお話しいたしますと、地域おこし協力隊として町からいただいているミッションとして農林業の振興というのがございますので、平日は松崎町の丸高ティーティー株式会社というところで林業と農業を主に行っております。週に一度、半日だけ松崎工房で木工を習わせていただいております、土日の時間を使って2030松崎プロジェクトだったり、あと今伊豆市の方で環境教育を学ばせていただいております。

それぞれの活動内容について次にお話しいたします。まず林業についてなんですけど、林業では森林施業プランナーとあって、山に入ってこの山にはどういう作業が必要なのかだったり、将来どういう山にしていこうっていうのを考えるための森林調査から、あと植栽、草刈り、伐倒、で伐倒した木材を市場に出すために集める集造材、搬出というふうに林業全体に今携わらせていただいております。

次に、農業についてお話しいたします。農業はですね、先ほど知事も来てくださったんですけど丸高農園でポンカンを主とした柑橘を栽培しています。農薬を使わず安心・安全を心がけて育てているので、その分手間がかかるという現状でございます。実際に行っていることはこちらに書いてあるとおりで、あと獣害対策として金網張りなども行っております。

次に、2030 松崎プロジェクトと、木工と、環境教育についてお話しいたします。2030 松崎プロジェクトについては御存知ない方も何人かいらっしゃると思うので、ちょっと概要をお話しさせていただきますと、誰でも参加できる松崎町の将来を考え行動する松崎まちづくりプロジェクトです。2030 年の松崎町を思い描き、定められたゴールが 18 個あるんですけども、私はそのうちの 2 つのチームに携わらせていただいております。耕作放棄地をゼロにすることを目標としているチームと、地域資源の活性化を目標としているチームです。人口が減り続けていく中で、松崎の地域資源をどう生かしていくのかっていうのを町民の方々や町外の方々とも話し合っ活動をさせていただいております。

次に木工では、1 週間に一度、半日っていう短い時間ではあるんですけども、松崎工房で木工製品を作らせていただいております。技術的にはまだまだで、たくさんの指導をいただくことも多いんですけども、その中でもこの間初めて自分の作品が誰かのもとにお嫁に行って、少しずつではあるんですけども世の中に出せるような作品を作ってきたのかなというふうに感じております。ゆくゆくは自分たちで採った木を木工製品にして売り出したり、間伐した材で簡単なお箸を作る体験の提供など、木工と林業をつなげた六次産業化や自然体験環境教育などをしていきたいと思っております。

環境教育の分野では、土日を利用して伊豆市の mata-ne というところで勉強させていただいております。環境教育だけではなくておもてなしの精神や場作りなども行わせていただいている次第です。この間は伊豆市の高校の授業で実際にきこりとして参加させていただきました。自然の中で遊ぶことの楽しさや、自然を慈しむ心、森や生き物の命の循環などを伝えるインタープリターとしての腕を磨くべく勉強中です。来年は松崎町でも実践できるようになりたいと思っております。以上が現在の私の活動となります。

最後に、今後について少しお話しさせていただきます。私がゆくゆくやりたいなって思っていることは 2 つございまして、1 つは人が豊かだとか幸せだなって思ってもらえるような場を作ること、もう 1 つが環境教育、自然体験の取組をもっと拡大させてい

くことです。この1つ目と2つ目は自分の中ではかなり密接に関わっている部分もあって、環境教育や自然体験などを通して自然や自分自身の豊かさ、それから価値に気づくようなことをやっていきたいなと思っております。今はそれぞれの活動になっていてなんか全部修行中みたいな形になってるんですけど、それぞれの技術を身につけることによって先ほどお話したこととも重なるんですが、林業と木工を結びつけたり、環境教育を広げていけると思っている次第でございます。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

**【発言者4】** 地元の方ばかりで皆さん知っている顔ばかりで、すいません、先輩方、今日ちょっと乱暴な言い方もございますけれどもお聞きいただきたいと思っております。

私は先ほどご紹介いただきながらですね、キックボードの話も出てまいりましたけれども注目度の高いことは皆さん御存知かと思っておりますが、私の立場が観光協会の会長ということでもちょっとお話を聞いていただきたいと思っております。

観光協会と言いますと皆さんどういうイメージをお持ちでしょうか。実は非常に曖昧で、観光に関することっていうようなざっくり、ふわっとしたイメージを持っている方が多いような気がしております。実際私が会長、その前から理事として活動する中で、実は他地区もそうなんですが、形骸化してしまっているところが非常に多いです。予算を消化する事業を毎年同じ、こういう流れが非常に多く見受けられております。そういう中ですね、何のための組織なんだろうと。観光協会だけではないんですけども、あらゆる組織の中で目的を見失ったところが非常に多いなっていうふうに私なりに感じておりました。もう一度その目的という意味で考え直す必要があるなということで、私会長の立場になりましたから、こういったことを振り返りながらも次の存在意義、目的は何だろうということを考えて今日に至っております。まだまだ達成できてないということもあるんですけども、そういったところでこう進めていきたいということで今計画しております。

1つは観光地、この西伊豆もそうですし、また松崎も先ほど発表者の社会に対する貢献っていうのもすごく皆さんやっているなというふうに感じております。またそれぞれ皆さんいろんな取組をされているんですけども、残念ながら、県外から来ていただきたいとか海外からも来ていただきたい。もちろん発信をしているんですけど非常に効率の悪い発信の仕方だったり、実際多くの人に取組が届いていない。もちろん今ソーシャルメデ

ィアというプラットフォームがありますけども、それを活用するのはもちろん大事なことですけども、その前に何のためにやってるのかをまず明確にしながらか進めていくべきと考えております。

非常にその中でですね、大事なのは当然皆さんもお好きだと思うんですがお金とか、やりたいこととか一言で言いますと欲求。何々をしたいとかそういう気持ちって皆さん人間であればお持ちだと思うんですね。ちょっと勉強チックな、あの知事の前で大変恐縮ですけども、うろ覚え的な感覚ですが「マズローの欲求ピラミッド」って聞いたことある方いらっしゃいますでしょうか。あ、ありがとうございます。マーケティングの基本になることなのかな。人間にとってですね、5つの段階的な要求があります。その辺を皆さん思いつきであれがいいんじゃない、これがいいんじゃないって皆さん取り組む中でやってらっしゃるんですけども、的外れなことがあったり、自己満足的になってしまったりとかって非常にもったいない。まず整理していただきたいなって思ったのがその5段階ですね。欲求、生理的欲求があります。その次に心理的に安全・安心の欲求。当然危ないところに行きたくないとか。でソーシャル、社会的欲求。あと、承認欲求ですね。最近皆さんソーシャルメディアで「いいね」をしてほしいとか、そういう欲求。最終的には自己実現という欲求があるんですね。

でそのどんな段階の欲求を満たすために我々どういうことを取り組んでいくかっていうことを明確にしてやっていこうと。さっきすごく感心したのが、発言者2さんは数値化している。それを見える化する意味でも、数値化って非常に大事だと思ってまして、先ほど言った形骸化した活動しかしてなかった組織の中には、具体的な目標が何もないんです。なかったんです。それはやはり行政に対してもお願いする皆さんに対しても会員の皆さんにも、お願いするときにはやっぱり具体的数値というものを示しながら、方向性を示すと。もしくは結果をちゃんと報告できるという成果の徹底的な見える化をしていきたいということをやってきました。

その取り組みの中で、マーケティングで、正直言って実は予算っていうのは、町からもそうですし、我々のその予算の使い方っていうのは事業そのものにお金を使ってしまって、実は大事な皆さんに知っていただくためのお金っていうのがすごく少ないんです。もしくは形骸化し、ただチラシを作りました、パンフレット作りまして終わってしまっていて、肝心なお客様のところに、目に届いてないっていう問題があります。それを今何とか変えていこうということをやっている中で、先ほどご紹介いただいたキックボード、

電動キックボードって皆さんの中でどうお感じでしょうか。色々交通法を変えたり、これから必要だっていうお話出ておりますけども、まだまだ問題がございます。実際道路で使用するとやはり危険だなんて感じてしまうこともあるんですが、じゃあなぜそれを取り入れたかと言いますと、他はやってない、むしろ問題視される、逆転の発想かもしれませんが、問題のものをなぜやるのっていう注目を浴びる。お金がないからこそそういったことですね、しっかり対処してやるんですよっていう話の中で、相当マスコミ、全国版のテレビなんかでも取り上げられました。残念なのがコロナ禍でなかなか効果としては表れにくかったことではありましたけれども、西伊豆・堂ヶ島っていう名前が非常に知れ渡ったっていう効果がございます。

まだまだそういったことをやっていくべきと思っておりますけども、一つこの地域で今日非常に松崎で、関心として見ているのが自動運転の技術。これはもう絶対不可欠だと思っております。そういう中ですね、前に森県議にも少しお願いしたことあるんですけど、路側帯。白い線、端ですね。最近の車はそれをカメラで読み取って安全に走行するっていう。先ほどの「マズローの欲求」の中で段階的にやっぱり安全がまずベースになればいけないという意味ですね、観光客もそうですし、住む我々も安全に過ごすためにもですね、道路全部直せっていうのはばく大なお金がかかりますが、せめて路側帯をしっかりこう白線を示すことで安全に少し近づくのではないかなっていうのと、それからですね、ほんのちょっとでいいですから、その宣伝費にかける、先ほど事業予算というと必ずそのことに対するお金しか出てこないものですから、それを知らしめるお金っていうのが、我々も工夫しますけども、丁寧に手立てとして支援がいただけたらなっていうふうに思っております。まだまだ言いたいことはたくさんあるんですが、ご理解いただければ幸いです。ありがとうございます。

**【川勝知事】**そうですね、発言者3さんは感心しました。20代なんですね。森の中に入って木を相手にして、危険ですよ。でそれを学びながら夢を持っていらっしゃるんですよ。この間、熱海で広聴会がありまして、そこでNPO法人熱海キコリーズというのが代表は女性でしたね。やっぱりこんな同じぐらいの年齢の女性で若くていらっしゃるんですけども、熱海といえば温泉のイメージが強いんですけども6割以上が森なんです。そこにですね、そのきこりのグループがそういった名前をつけたんです。でこの間土石流でやられた、あそこでお堂がやられました。そのお堂の中にあつたあの仏様で

しょうか、それは無傷だったんですよ。でこれをきこりの技術を上手に利用してですね、再建して心の支えにされたんです。女性です。

で今日もですね、ポンカンの名人のところに、永久ポンカンの名人で糖度 17 度ですから、もう生き返りましたね、いただいたときには。そういうミカンが好きなのかなと思っただけですね、違うんですよ。もっとすごい、なんて言いますか志があるわけです。あー豊かだなあ、幸せだなあという気持ちになるような場を作ることだと。これが最後に発言者 4 さんのおっしゃったですね、自己実現できるということと関わってくるんじゃないかと。ここはそれを実現する場だから、こんなに生き生きと仕事してるんじゃないでしょうか。

そして根幹を作っているその丸高さんはですね、100 年ほどの歴史があるところなんですけど、ただ今ではやってらっしゃる方がですね県外の方なんですけど、そしてここに気に入って住んで、ほっとかいたら死ぬワンちゃん救ってですね、猿と戦い、イノシシと戦い、そういう人と一緒にやってるんです。ものすごくたくましい方とやってるわけです。ですから、変わってきたなという、若い人たちのまたこの女性のたくましが、今この松崎あるいは西伊豆でもそうでしたけど、西伊豆ではんばた市場に行きました。そこでですね「ツッテ西伊豆」という、これやってるのは西伊豆のスーパー公務員っていう人ですが、この右腕になってるのが祖父が松崎のおじいちゃんだったって言ってたかな、釣りを子供の時におじいちゃんとやってたので、もう釣りが大好きなんですね。それではんばた市場では彼女自身がさばいてるんですよ。女性です。まだ 20 代です。そしてそこにいろんな PR ができて、いっぱい若い人が来るわけですね。それだけ乗せる数が決まってるじゃないですか、漁船の数も決まっているし。ですから満員な訳です。そういうですね新しい動きが起こっておりまして、まあですから発言者 3 さんは、もうずばぬけていると思いますけど、彼女だけじゃなくて西伊豆町や松崎にそういう人が今来はじめてるって事じゃないかというふうに思いますね。

それですね、その木工の話が出てきましたでしょう。先ほどここに来る直前にその松崎木工に行ったんですけども、学校を探していると。そこで木工も少し習う人が増えてきたんでここでは狭くなるとおっしゃるんですよ。深澤町長に言ったらですね、ちゃんとその場所を考えてるって言うからですね、まあうまいコンビネーションだなと思ったんですよ。じゃあ学校に工房を作るんだったらもう木工の学校にしたらいんじゃないですかというふうに思いましたね。だって県外からたくさん来てるんですよ。で

彼女もその木工の生徒さんですね。上があるってこともさっきおっしゃってたでしょう。やっぱり名人と比べると全然違うんですよ。釘を使わないんですね、全部ですね木組みでやってしまうんですよ。だから法隆寺以来の伝統が日本になくなってきていてですね、ここでそれができるというんで、その今の代表理事さんも理事さんも2人とも県外なわけです。でここでもう5年以上前からですね、立ち上げてそして生徒さんがあちこちから来ているわけですね。ですからこれは松崎高校がですね、技芸から始まったということでしたけれども、そういう文化的遺産がやっぱり地域にあってですね、ですからサッカーの高校があったり、あるいはゴルフの高等学校があったり、あるいは将棋とかあるいは碁だとかそれ以外にも組織があります。中村堇ちゃんは小学生でプロになったじゃないですか。もう彼女は囲碁一本でしょ。それから藤井聡太君がですね、高校中退しまして、いらないと、でそれで将棋道でやってるじゃないですか。同じようにですね、木工くらいこれから大きく飛躍するところはないんじゃないか。必ず家の中には家具が必要ですから、その家具の一部は自分で作れるとか、あるいは場合によっては家まで作ってしまうとかですね、働き場についてプロの力を持ってればですね、でしかも家があったら必ず家具が必要ですから、それをですね、作れる人を作ってしまうと、でそうするとそれは学校組織にするとすれば工房ではなくて、校長先生というかあれは学長となって副学長とですね。

それである静岡県の防災士やってるじゃないですか、ジュニア防災士とか。あれは静岡県が勝手にやってるんです。防災士資格っていうのがあるんです。阪神淡路大震災以降ですね、そういう防災センターが兵庫県にできまして、国が指定する防災士資格。全然関係ないです、私たちがやっているのは。ジュニア防災士は県が勝手にやってるわけです。ジュニア防災士の資格を持つことで、いざというとき何ができるか分かるわけですよ。こういう出っ張ったですね、実際に基準を作ってしまうことができる段階にあの松崎木工もなっている。だから木工やるなら松崎だというふうになればですね、学校も生きてくるなど。廃校になった学校を狙って多分取り合いになるんじゃないですか。そういうことでね、取れるかどうか町長に聞いたらとりあえず、結構な話ですね。

ですから私も東アジア文化都市になるからということで、永岡桂子文部科学大臣に木工文化とかですね、こちらから発信したい。多いなる予算をつけていただきたい。日本全体の木工の匠の技術をこちらから発信したいということです。で今それを今日思いつ



いたばかりですけど、素晴らしいと感じまして発言者3さんのようなこういうたくましい女性がいると。あなた外国の経験もあるんじゃないですか。

【発言者3】 少しだけ、大学1年間休学してフィジー5ヶ月間、タンザニア4ヶ月間行っています。

【川勝知事】 でしょう。ですからフィジーという南の島に行ったり、タンザニアに行ったりですね、まあそのさすが四国ですか、やっぱり気宇壮大ですね。その人たちがここはですね、やっぱり松崎は、松崎の道は世界に通ずです。依田勉三だって行ったじゃないですか。北海道全部、十勝平野を全部、松崎が作ったと言ってもいいんじゃないですかね。そういう町ですよ。黒潮文化です。ですからここにですね、引きつけるものがあるんですね。まあですからこの西伊豆・松崎ですね、まあ西伊豆の子たちは松崎高校に来るじゃないですか。この高校の生かし方を聞いている感じですね。

この発言者4さんのはですね、科学的ですよ。マーケティング、観光協会となると何と言いましても観光協会の会長でありますなんて挨拶のところに出るんですが、それがどうしたということですから、きっちりとやらないといけない、目的は何なんだと。最後が自己実現だと。自己実現の目的はこういう人です、そういうものをここで作りたいと。でそれを環境教育としてやっていきたい。テキストはどこにあるかというこの自然の中にあると言っているわけです。それからですね、昨日は松崎高校だったと思います。農と漁、これをですね一つにしなながらこの2030松崎プロジェクトに活かしていきたい。でその新鮮なものを味わえる、これをですね、いわゆる耕作放棄地などを活用しながらやっていきたい。耕作放棄地はもともと耕作されてたところだから、土地が肥えています。ですからちょっと整備すればですね、じゃがいもなんかやるとあっという間にできますよ。食べきれません。ですから食べ物に困らないってことが一番今大切ではないかとすら思います。

この食文化は文化の思想ですから、これもまたですね、私はここから発信してですね、景色がきれいなところで自分の作ったものをみんなと分け合って食べられる。でももちろんそれは例えば「蔵ら」という食堂とかですね、そういうところですね、地のものを出していただける、おいしくいただける場所として有名じゃないですかね、あの葉っぱがすごくいいあめになったり、あるいはお茶になったりして、あれはもうものすごい栄

養があるわけです。普通のお茶より栄養があるというふうに言われておりますが、そういうものをですね、開発してる人たちがいるわけですよ。私はこれがですね、これからの新しい日本の何て言いますか、売りになっていくとすらと思います。

そして木工などはですね、必ず外国人も関心を持ちますよ。ですから森を大切にしたり手を入れたりというそういう運動は地球環境の時代ですからみんな持っている。ですからコンクリートジャングルの東京とは違うですね、そういうその暮らし方、生き方ということの中に本当に幸せがあると。これをですね、ここから発信していく。来年はそういうものになると。

で今日最後には自動運転のことをおっしゃいましたでしょう。自動運転はですね、あの3次元点群データと言いまして、もう要するにバーチャルリアリティと言いますか全部ですね、コンピューター世界の中にデータが取り込まれていまして、身につけると全世界見えちゃうんですよ。ほとんど堂ヶ島の遊覧船に乗ってると同じ気分になるということが出来るんです。でこの3次元点群データは静岡県が大学と一緒にやって作って、まさに土石流の時にですね、全部公開しました。民間の人だとか今これだけでこの5.5万90立米が流されました、元の地形と今の地形を比べると5.5万立米が流れた、そういうのがぱっとわかっちゃう。それを今3次元点群データを活用しながら田島モーターズというところが車を作って、静岡県です、それは。そして今沼津とそれから袋井と掛川がそうだったかな、それから松崎でやってるんですね。

で今日私はそれに乗ったのですが、運転手は一応乗ってる形なんですよ、ハンドルは握らないんです。熊本から来た人です。女性です。震災の後こちらに来られて、幸せそうな顔されてました。そしてそれをコントロールする施設、どこだと思いませんか。三島なんです。三島の大学の一室にコントロールセンターがありまして、そこでですね全部データが送られて信号が来ましたとそれやってるわけです。でこれはですね、時速19キロで走るんですけども、これ必ず日本中で開かれております。

一番最初に使われるのが多分裾野市、トヨタが作っている未来都市ですね、ウーブンシティと言いますけれど、英語でですねMaaS、Mobility as a Service、動くことは全部です。全く何不自由なく機械がやってくれるという。それをトヨタは世界に発表してそれを静岡県で今実証実験でウーブンシティ、未来都市、これをやろうとしているわけです。それをですね、その連動しているのが今日私たちの乗ったそのいわゆる自動運転の6人乗りのバスでした。でこれはですね、すごい可能性があります。これをですね、

観光にも繋げるし、日本のこれからの将来を示すいわゆる移動の文化としてこれを発信することができる。先ほどはICOIプロジェクトとして温泉文化を言いました。療養する方たちにとってこういうその理学療法士がいらっしゃるということが安心の元になります。同じようにですね、人が観光する目的は何かというのがですね、幸せになることだと言ってしまえば一番いいと思いますね。

そして今ですね、非常にこの巣ごもりの状態でお金が200兆円以上配られています。政府で配ってます。これ全部国民の将来の借金ですね。どんどんお金だけ配ってるわけですね。でそうした中でですね、私は人がどういう風にして幸せになるかということを考えるための、そういう予算を来年文化首都になるときにこれに充てるように、もう全力で固めているわけです。来年動きたいということをしてしながら思った次第です。お金が配られて、どこに何を使うんですか。ともかく今の暮らしを支えます、もし余れば貯金します。3番目は何でしょう。旅なんですよ。旅をしたいということです、日本人。でこういうのが起こる前の日本人の旅に行き、寄って落とすお金は21兆円を超えていました。

今、外国の人たちが来れるようになりました。外国の人たちが来てですね、だいたい3兆円ぐらいですね、落としていくお金は。しかし日本人はですね、1年間で20兆円以上ということです。それはこれから自由になっていきますとその1割増えただけで22、3兆円あるわけです。ですからですね、旅がしやすいようにすると。でそれはやっぱり自分がその家族とあるいは友人とあるいは恋人と旅をして、そこで美しい思い出を作りたい、そういう幸せと関係してるんですよ。ですからですね、幸せは量に還元できませんけども確実に記憶の中に残ってます。生きるその何ていいですか、元になりますからそういうものを差し上げるという、それが静岡県伊豆半島ですね、目的だと。ここにきて人は幸せになってまた日常生活に戻ってくださいという、そういうですね地域にできるんじゃないかと思いますね。

今空き家がいっぱいあります。また我々は1軒あたり5、60万円の助成、去年やってあつという間にはけたんですね。1ヶ月半ではけました。去年は500軒から600軒分用意したんですが、今回は1000軒用意しました。いかに需要が多いかということなんですよ。ですから私は伊豆半島は東京圏からも近いですからね、東部、伊豆半島は一体になりまして、それから余計な話をするようなんですけど、ここにですね、すごい先生がいるんです。

五條堀孝と言いまして、三島に、元は福岡の人なんですけどこちらが気に入っちゃってこちらに住まわれたんですよ。この人はですねノーベル賞よりも偉い学者で、ローマ法王庁のアカデミーがありまして、そこには80人の世界最高級の学者がいます。そのうちの40人のノーベル賞学者。ノーベル賞学者ではないけど五條堀さんは遺伝学の権威としてですね、終身会員です。その人がですね、ローマ法王庁から認められただけでなく羨ましがったイスラムの国王、アブダビ国王がですね、お前に金やるから大学院運営してくれと、サウジアラビアの大学院の教授やってるんです。でサウジアラビアというのは周り全部砂漠でしょう。こちらに来ると富士箱根伊豆っていうのは温泉がある、だからこの王子様とかお金持ちが来てですね、みんな知ってるわけですよ。それを知った五條堀先生は富士箱根伊豆国際学会を立ち上げています。

富士箱根伊豆国際学会ですから、実は世界の学者がですね、ここ注目してるんですよ。国際学会で彼は遺伝の研究をするのとは違う、学際的に国際総合的な富士箱根伊豆の魅力を発信するんだとこうおっしゃっているんです。箱根は神奈川ですけれど県境なんか関係ないです。だからここはですね、世界文化遺産の富士山、ジオパークの伊豆半島。今日はユネスコのジオパークの先生が見て回って、結果を聞く会になりますね。今日はラフォーレで先生方にお目にかかって、いかがでしたかというふうにそうすると延長されます、そういうですね重要な局面です。私は必ず再延長されると、更新されると確信しておりますが、それは今日こうした形で見てからのことですから、今申しましたような国際学会ができて、そしてきちっとですねデータをベースにして理論的に考えているんだらうこの観光協会の会長というですね、珍しい最近の観光協会は全く違うんですね、新しいタイプなんですね、モダン。それはどうしてかというとおそらく西伊豆がですね、ここまで落ち込めないよう落ち込んでのことですから。高齢化率がすごいと。でも新しいポイントを出す、あるいは堂ヶ島を売り出す、あるいはプロのスポーツチームと契約をする。やれることを全部やっているでしょう。こちらはこちらで高校生が一生懸命やってるじゃないですか。これはですね、新しい動きでなくて何でしょう。私は賀茂の時代がやってきてるなというふうにすら思う次第です。ですからそれもですね、思っただけでなく、文部科学大臣が日本の文化首都になってくれということですから、もうですから思いっきりですね、必要な予算を出していただいて、人の幸せのところということをやっていきたいと思います。そういう今日は思いを改めて強くしたこの4人の皆様方のお話の感想でございました。ありがとうございました。

【発言者4】先ほど知事から、幸せを作ると。幸せってやっぱりこう究極だと思うんです。皆さん人間誰しも最終的にはやっぱり何したいのって、さっき私も欲求って話しましたが、まあ行き着くところは幸せだろうなというふうに、哲学的な話かもしれませんが、それはすごく感じて本当に共感しました。

私たちがやってるのはあくまでも手段なんですけども、その中でその手段を使うに当たってですが、数字をやっぱりこう示す、数値を元に評価するっていう、大事なんですけど、実はさっきまだまだだっていう話の中ですが、各その観光施設の数値は皆さんによって出していただいていますね。それまでのそのプロセスとしてあるあるだと思うんですが、うちの数字は他に見せたくない、知られたくない、で統計調査が取れない状態を多々目にしてきたんです。やっぱりその景気の良かった時にこの家は儲かってるだろうとかこっちはああだこうだと、話題が少ないから多分地域の中です、そのお金の話だったり数字の話ってのはタブー視するような風潮っていうのは今も多少残ってるんですけども。我々危機感なんです、普通に迫られて、僕は今までないっていうのはものすごい危機感からそういったことを取り組まなきゃいけない、生き残れない、こういう思いから今も継続して取り組んでおります。数字を出したり、あからさまに恥さらしたいなところも実はあるんですけども、恥を忍んでそういったことはみんなでき共有することが大事なんだと。なおかつ、そういった中では狭い地域ですから、それに共感する中でも絆を深めていきたいと。せっかく優秀な方達がたくさん来てるんですけども、やっぱり3年後、4年後、5年後、あれまた減っちゃった、こういうのも過去見てきますので、本当に魅力があり、なおかつ地域との絆として築けるように取り組みたいと思いますので、それも県も含めてご支援いただければ非常にありがたいと思います。

【川勝知事】高齢化率というのは数字じゃないですか。あるいは少子化、いわゆる何人女性が一生の間にお子さんを産むかっていうですね、出生率みたいなのがありますように数字になってるじゃないですか。これ知ってですね、この花をどなたかにあげるとお花は無くなりますが、情報はですね、分けても減らないでしょう。ですから分けて減らないものをみんなで共有すると、困ってる人がそこにあるから皆で助けるということになります。こういうコミュニティのあるところはですね、そういうことができると思います。

なぜ困っているかもわかりますから、じゃあ助けてあげましょう。いずれわかるかもしれないのでね。まあですからその観光に関わる情報、あるいは空き家に関わる情報等々ですね、個人情報あまり個人的なものになっても困りますけれども、そうでない限り、分けても減るものじゃないからこうなってるんですということ言うといいですね。それからですね、幸せってことを発言者4さんがこれ大事とおっしゃったんじゃないかな。偶々発言者3さんもそういうことをおっしゃったからですね、似てるなと思うんです。

85歳ですね、歌手活動の最後を富士山の麓で締めたいと言った人もいました。誰でしょう。そうです、加山雄三さんです。加山雄三さんが2001年から始まった朝霧JAMという所でですね、自分の元気なうちに、声が出るうちに最後は富士山の麓で歌を歌いたいということで、1万人近い人たちの前ですね、朗々とこの日曜日に若大将です。彼が一番好きなのは西伊豆でしょう。残念ながらヨット焼けましたけども。あそこにですね、加山雄三記念館があったじゃないですか。何故あそこなのでしょう。海が好きの人がなぜあそこか。彼はですね「僕は幸せだなあ」、あそこですよ。でそこにですね、加山雄三記念館があったじゃないですか、今は変わりました。そこで何かお食事されたことがありますか。「君といつまでも」っていうメニューがあったのを御存知ですか。「君といつまでも」っていうメニューがあって私面白いと思って、バックグラウンドミュージックに「君といつまでも」が流れていて、持ってきたらですね、卵の黄身が2つあったんです。「黄身といつまでも」っていう料理でしたね。誠にもって楽しい思い出がありますけれど。

ともあれ、あそこで彼は幸せだったんですね。今85で現役で、85と言えば、平成上皇がですね、ご譲位あそばされたのが、もうこれ以上一生懸命今の仕事できませんので譲位せざるを得ませんということです。昭和8年の生まれですから、満85歳で譲位されたんですね。ですから似てますね。元気なうちは85まではですね、現役だっていう。日本の国家の統合の象徴ですから。憲法第1章「天皇は、日本国民統合の象徴であって、この地位は主権の存する日本国民の総意に基づく」と、第1条第1に書かれております。その天皇が85歳まで現役であったということはですね、皆さん心にとどめておくべきです。

会社では60歳で定年だと言われております。日本国民のシンボルは85歳、そして今の陛下はですね、昭和35年生まれ、1960年生まれですから。で即位されたのは3年前です

ね、60歳だそうです。職員が60歳で定年でやめていくときから、誰にも代わることができない仕事を始められているわけですから。ですから我々はですね、そういうつもりで仕事をしましょう。ですから別に高齢だっていいということです、元気であればいいわけですから。先ほどの発言者1さんの体操ですね。毎日励行して、そしていざという時にはちゃんとマイ防災ボトルを持ったりしてですね。あなた何入れてるの、私はこれだよといった楽しい会話をしながらですね、若い人にそういうことを伝えていって、でここで若い人とそういう高齢者ではですね、親しみ、幸せに暮らすというそういう地域にできるんじゃないかと。突然私行ったんですね、朝霧高原まで。で、お目にかかりましたね。ご家族と全員来られてましたね。本当に幸せそうな顔をされておられました。以上、ご紹介申し上げます。西伊豆です。

【傍聴者1】松崎生まれで松崎育ちです。高校大学と外に出ていたんですけど、地元で何かやりたいって思って、2年前にUターンしてきました。今は大学時代に出会った海藻の養殖ベンチャーに勤めています。

先ほどから知事が文化という言葉は何度もされていたんですけど、海藻食文化という言葉をちょっとお耳に入れたくて、発言させていただきました。

静岡県は駿河湾っていう豊かな海を持ってるんですけど、うちの会社に365日中200日ぐらい海に潜っているおじさんがいるんですね。その方は本当に日本中、世界中の海に潜っていて、この海にはこの海藻があるとか、あの海にはないけどこの海にはこの海藻があるということを全て網羅しているような方なんですけど、この方がおっしゃるには、駿河湾が世界で一番海藻の種類が豊富な海じゃないかっておっしゃっていて、なんかそれってすごい誇りに思えることだなって思ったんですね。私、松崎出身、静岡出身として。そういう豊かな海を守る活動も、なんか個人的にも積極的にしていきたいですし、私たち自身もそういう県に住んでいるというところで誇りに思っていきたいなって思っていて、私たちの会社では地域に根付く海藻食文化を守るっていうのも目標の一つとして抱えているので。

何て言いたかったかわからないですけど、海藻を食べる文化を身近にもっと皆さんにも感じてほしいなと思って、今もう生産量がなくなってきて途絶えそうになっている海藻も、養殖っていう形で皆さんの食卓に届けられたら守れるんじゃないかなと思っているので、よろしくお願いします。この町には、はんばのりとか川のり、すじ青のりって

いう海藻もあって、ここにいる皆さん食べ方とかも知ってると思うんですけど、いろんな形で広めていきたいなと思っているので、よろしくお願ひします。すみません、話がまとまらなくて。緊張しています。

【川勝知事】ありがとうございます。実は彼女が言ってる通りでありまして、駿河湾は豊穡の海です。一方でですね、大分汚れてもいるわけですね。ですからサクラエビも取れなくなりまして、でそれと同時にいろんなゴミが、プラスチックみたいなゴミが流れている。しかしものすごい可能性があるということです。

マリンオープンイノベーションパーク、MaOIパークというものをですね、清水区に作りました。その研究所長が五條堀孝先生なんです、先ほど申し上げた。彼は紅海、あのアラビア半島とアフリカとかが近い、そこはほとんど生物がいないんですよ。そこを研究してて、それと比べてこの駿河湾の海の豊かさというものを見てですね、しかも湾の中で日本で一番深いわけですね。ですから黒潮も流れ込んできている。大井川や安倍川や富士川や狩野川が流れこんでいます。その川にある栄養分のあるものがプランクトンの餌になりまして、そして様々な魚介類が育っているわけですね。で深海にも非常に人間にとってまたわからないことがたくさんあるので、自分は遺伝学の観点から取り上げたいということで、それでも彼はですね、サウジアラビアの方をやめようとしてもやめさせてくれないんですね。ともあれ、やってるんです。

で今日はですね、川のりのコロッケを食べないで松崎を語るができない。その宣伝のパンフレットを作ったのが静岡大学の3年生の地域創造学環の女子学生おふたりですね。おふたりともが来てそして他に8人の学生も来てその社長さんと言いますか、店主と思ひ出話をされてました。帰りにですね、揚げたての川のりのコロッケ食べて、一人だけ食べるのも悪いなと思ったんですけど、私だけ食べましたけれども。行ってたのでいただきました。今日実は弁当と一緒に食べたんですが、そこにも入ってましたね、松崎の川のりコロッケ。川のりのこと、海藻のことを考えるきっかけにもなるなと思つてたところを傍聴者1さんのお話もございまして、これからはですね宇宙だけではありません。海の中がですね、研究のフロンティアになる。それはですね、ひょっとすると海藻の中で、あるいは海の中の生物でプラスチックを分解する能力を持っているものがあるらしいんですね。そういう可能性のある部分なんですけど、そしてしかもそれは世界で最も美しい湾クラブから一発で認定されて、ちなみに世界で最も美しい湾クラブとい



うのはですね、日本では最初は富山湾だったんですよ。でそれは何だということに向こうの知事さんから聞いてそれで私はですね、その総会はフィリピンのなんとかっていう美しい湾で開かれる、僕はそこに行くって言ったんです。富山湾より駿河湾がいいですね。向こうは立山でこっちは富士山になりますでしょう。

ですから、どう宣伝したらいいのかと思ひまして、それでですね今の西伊豆の町長さんは星野さんですね、その前の藤井さんという人がいまして、藤井さんからですね、夕陽のカレンダーもらってたわけです。それをちょっと複数余ってるだけくれるという全部持って行って、総会の委員の先生、各委員にこれが駿河湾ですよと見せたんです。そして一発で決まりました。西伊豆のおかげでございます。ありがとうございます。それでここは世界で最も美しい湾クラブになっており、最も生物が息づいている豊穰の海であると、こういうわけですね、それを今研究しているのが富士箱根伊豆国際学会を作られた世界的遺伝学の権威である五條堀孝先生で、そのMa O I パークは清水港の県の建物の中にございまして、それで今やっておられます。傍聴者1さん、あなたの言われるとおりです。海藻はすごく大事です。ありがとうございます。